

## 第11章 流動性（短期安全性）の分析

### 本日のテーマ

① 流動性分析の意義（分類）

② 関係比率分析

流動比率

当座比率

営業CF対流動負債比率

} 流動負債が分母

未成工事収支比率（負債が分母だが大きい方が良い）

立替工事比率（これは難解→試験直前に押さえよう）

③ 資金保有月数分析（多い方がよさそう→分子は？）

運転資本保有月数

現金預金手持月数

④ 資産滞留月数分析（小さい方がよさそう→分子は？）

受取勘定滞留月数

完成工事未収入金滞留月数

棚卸資産滞留月数

必要運転資金滞留月数

① 流動性分析の意義（分類）  
企業の短期支払能力を意味する

② 関係比率分析

★流動比率＝流動資産／流動負債  
（銀行家比率→2：1の比率→資産の担保価値は1/2）  
日本の大企業の平均値は約125%→100%割ると問題だろう

建設業では未成工事支出金と未成工事受入金を除いて分析するのが一般的

※分子を現金にして現金比率ということもある

★当座比率＝当座資産／流動負債  
（棚卸資産は換金に売上債権というワンクッションが入るので除外）  
（より厳しい比率なので酸性試験比率とも呼ばれる）

いろいろな定義あるがこの試験では  
現金預金＋売上債権（割引・裏書除く）－貸倒引当金＋有価証券

日本の産業平均は75%

★営業CF対流動負債比率（営業CF／流動負債の期中平均）  
短期債務（流動負債）を1年間の営業CFでどの程度まかなえるか？  
100%超えていれば資産売却や借金で借金を返すという状況ではない、ということ

★未成工事収支比率（未成工事受入金／未成工事支出金）  
（負債が分子だが大きい方がよいという観点で押さえよう）  
工事毎の管理が必要（当該工事の資金負担の確認）  
全体でみると資金繰りの良否の確認が可能

★立替工事比率（これは難解→試験直前に押さえよう）  
未成だけでなく完成工事も含めた概念

未成工事収支比率に完成工事も含めた発展系と考えるとどうなる

$$\frac{(\text{未成工事支出金} - \text{未成工事受入金}) + (\text{受取手形} \cdot \text{完成工事未収入金})}{\text{未成工事支出金} + \text{完成工事高}}$$

分母は未完成分の原価（売上予定額）と完成分（売上になった分）  
分子は、未完成分の立替超過分と完成工事分の未収入額

★流動負債比率（流動負債／自己資本≒純資産）  
建設業は特に流動負債が大きい産業→よって単なる負債比率ではなく流動負債比率で分析するケースも多い

③ 資金保有月数分析（多い方がよさそう→分子は？）・・1か月売上との対比

★運転資本保有月数（運転資本／1か月売上高）

（正味）運転資本＝流動比率の実数 Ver＝流動資産－流動負債

※売上高が低いと多く見える（良い傾向とはいえないだろう）ケースあるので注意

※この数値が前月より高いから楽とは限らない（手形決済の時期による）

目安程度の指標

1か月売上との対比なので2期平均ではない

★現金預金手持月数（現金預金／1か月売上高）

④ 資産滞留月数分析（小さい方がよさそう→分子は？）・・1か月売上との対比

★受取勘定滞留月数（（受取手形＋完成工事未収入金）／1か月売上高）

売上げの何倍の売上債権があるのか？

★完成工事未収入金滞留月数（完成工事未収入金／1か月売上高）

売上げの何倍の売掛金があるのか？

★棚卸資産滞留月数（＜未成工事支出金＋材料貯蔵品＞／1か月売上高）

建設業では材料在庫や製品在庫は少ない

結果として未成工事支出金の残高で分析

但し、長期工事で完成基準をとれば未成工事支出金は大きくなる

→大きいからダメという訳ではない

★必要運転資金滞留月数（＜正常営業資産－正常営業負債＞／1か月売上高）

正常営業資産＝受取手形＋完成工事未収入金＋未成工事支出金

正常営業負債＝支払手形＋工事未払金＋未成工事受入金

<まとめ>

11.1 流動比率は流動資産／流動負債であらわされ、当座比率は当座資産／流動負債であらわされる。また流動資産－棚卸資産＝当座資産という関係から、当座比率はより厳格な指標であり（ゆえに酸性化比率と呼ばれることもある）この数値が100%を超えていれば短期の安全性は高いと考えることができる。

動画でも解説していますが、私は問題の読み違いをしました。私は流動比率と当座比率の考え方を説明してしまいました。

設問は、両比率について2種類の考え方があるということで、本来は未成工事関連科目の除外を書くべきでした。ただ、私が受験した時には、設問の意味を大きくとらえちがいがながら合格しました。今回の内容でも、問題を読み違えた前提で解答を書いても、その解答自体に間違いがなければ若干の加点はあるはずです。

私の時は論述以外の自己採点が60/80の状況で、とらえ違いの解答で合格したのですから記述問題で10/20あったわけですね。ですから試験においては、記述は絶対にあきらめず、頑張ってキーワードを組み合わせてください。

11.2 銀行家比率とも呼ばれ、アメリカの銀行が要求する流動比率の%である。これは、借入金の担保として資産の評価は1/2であるという意味に他ならない。

11.3 いずれも月商を分母にした指標であるが、保有月数という場合には経営にプラスの意味、滞留月数といった場合には経営にマイナスの意味をあらわすことが多い

11.4 動画で解説していますが、解説を読んでも簡単に確認できます